

これがオススメ! 読み聞かせ本

低学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんのお本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

子どもたちは読み聞かせをしてもらうのが大好きです。気に入った本に出会えたときには思わぬ効果があるようです。

この作品は、子どもたちに年間100冊以上読み聞かせをしてきた元小学校の先生が、心に残っていると教えてくれた本で、1979年1月の初版以来、今もその人気は続いています。ペー지를開くたびに言葉の連なりが増える楽しい言葉遊びの本です。ひらがなだけで書かれた特徴ある大きな灰色の文字は、子どもが「声」に出して読みやすいように作られています。

私はその先生に、沢山のの中からこの本を選んだ理由を聞いてみました。すると、当時担任していた学級にいた軽い吃音のある子どもがこの本を気に入り、母親に初めて「本を買って」とねだったそうです。大好きな



これはのみのびこ

谷川俊太郎・作 和田誠・絵
サンリード

本を手に入れて毎日声に出して読むうちに、学習発表会で読み聞かせに挑戦し、読み間違いや吃音もなくクラスメイトを驚かせたとのこと。吃音が治ったわけではありませんが、学級全体にお互いのよさを認め合う効果が生まれたそうです。

谷川さんの作品は教科書に『生きる』の詩やレオ・レオニの代表作『スイミー』の翻訳があり、子どもによく知られています。もちろん、大人にも人気です。『こ』と『あそびうた』などの作品は、日本語学の研究として注目されています。

イラストレーターの和田誠さんとコンビを組んだ作品は、ほかにナンセンス童話『ワツハワツハイのぼうけん』や『あな』があります。友達関係を丁寧に描いた『ともだち』も読み聞かせにおすすです。